

低コスト武器に 応用開発・商品化

シクロケム

で、シクロケムでは子会社のコサナが「ピュアファイバー」の商品名で開発・販売、順調に売り上げを伸ばしている。

最近では、これら α -CDの生理活性効果が、悪玉コレステロールの原因である飽和脂肪酸を包摂して排出する一方、生体有効成分の不飽和脂肪酸のみ取り出す、デトックス効果によるとの研究結果が米国で発表され、物性解明が画期的に進んだ。これにより新たな製品開発が一段と進展しそ

うた。
他方、シクロケムの γ -CDは、機能素材の包接が主用途。花王のトクホ「ヘルシア」に応用されているほか、近く静岡の大手茶飲料メーカーが発売開始する新製品にも応用されるなど、カテキン飲料に需要を伸ばしているほか、コエンザイムQ10(CoQ10)、 α -リポ酸、アスタキサンチンなどを包摂したサプリメント類でも主要素材の地位を確保している。

シクロケムは、同社が総代理店を努める独ワックケーミーの米国法人で、世界最大のシクロデキストリン(CD)拠点キストリン(CD)拠点を保有するワックケーミーの α 、 β 、 γ シクロデキストリン(CD)をベースに、引き続き応用開発・商品化を積極推進している。

とりわけ同社が注力しているのは低コスト化を実現した α および γ -CDの展開。 α -CDでは、これまで食品分野や化粧品で広範なグスタ化合物を包接して製品化されているが、近年、 α -CD単体が主役の製品化も進んでいる。 α -CDがコレステロール減少、血糖値上昇抑制、便秘改善、抗アレルギーなどの生理活性効果を持つことが相

次ぎ明らかとなったため市場に送り出している。このうち、CoQ10は、3年前に、それまでのCoQ10が吸収率が低かったためブームが去った。しかし、ここに来て、 γ -CDで包摂することに、少量でCoQ10の吸収率を各段に高めると同時に、筋肉増強や美肌効果を実感できることが判明、これにより三菱ファス化学などが、需要を喚起しブーム再来を図る動きが出ている。シクロケムでは、今年5月に京都で開催の国際シンポジウムで、 γ -CD包接によるCoQ10吸収向上効果をテーマに実験データを基づく講演を予定している。また、アンチエイジングやダイエット効果の高い α -リポ酸の γ -CD包接品も旧・三共ライフテック(現・三菱化学フード)と共同開発し、市場に送り出している。